

まちの話題

『着くずれ 110 番 はたち 20歳を迎えました』

1月5日(水)、平成17年成人式が行われた大崎町中央公民館において、『着くずれ 110番』が開設されました。

これは、日本和装学園大隅本校学園長の溝口千恵子さんほか講師4人が、ボランティアとして毎年行っているもので、着付けのベテランの素早い手直しに、評判もたいへんいいようです。

溝口さんは、「今年成人になられた方々同様、着くずれ 110番も、20年目を迎えました。みなさんには、たいへん喜ばれています。自分が元気なうちは、これからも続けていきたいと思えます。」と話してくださいました。



『河川の美化清掃に大きく貢献』

『持留川をきれいにする会』(会長・東平清二さん)が、平成16年度河川愛護運動において、河川の美化清掃に大きく貢献したことから、1月14日(金)、鹿児島県知事から表彰を受けました。

当会は、持留川の周辺4集落(後迫・穂園・栗之峰・弁付)により構成されており、長年放置されていた持留川の河川敷と土手の草払いを、平成13年から行っています。

会長の東平さんは、「今回、このような賞をいただけて、たいへんうれしく思います。今後も河川敷の清掃は、続けていきたいです。」と話してくださいました。

『衛生自治会がゴミの不法投棄防護ネットを設置』

1月21日(金)、大崎町衛生自治会(会長・遠矢文雄さん)は、ゴミの不法投棄の防止を図るため、永吉地区(鉄道線路跡・東串良町との町境付近)に防護ネットを張りました。

この道路沿いは、以前からゴミの不法投棄が後を絶たず、農業用ビニールや農機具、電化製品などが捨てられていました。衛生自治会では、昨年10月に清掃を行い、4トントラック約5台分のゴミを回収しました。

今までに、町内3か所に防護ネットを設置していますが、いずれもゴミの不法投棄はなくなっており、効果は絶大のようです。

